

# Mission

## 教育に、人に、社会に、次の可能性を。

教育を新しくすること。  
それは、社会のまんなかを新しくすること。  
私たちは学びのあり方を進化させます。  
学習を一人ひとり最適化し、「基礎学力」を最短で身につける。  
そのぶん増える時間を、「社会でいける力」を伸ばす。  
自分の人生を生かせる人を増やし、  
これからの社会をつくっていきます。

atama plusはなぜ存在するのか、あるいは明後です。「Missionを実現するため」、それ以外にありません。社会のまんなかを新しくするために、限られた生徒ではなく、数億という規模の生徒に良い教育を届けていく、そのために、atama+というサービスを軸としたビジネスで、教育を進化させる持続可能な仕組みをつくります。そしてそれをなるべく早く実現することを目指します。

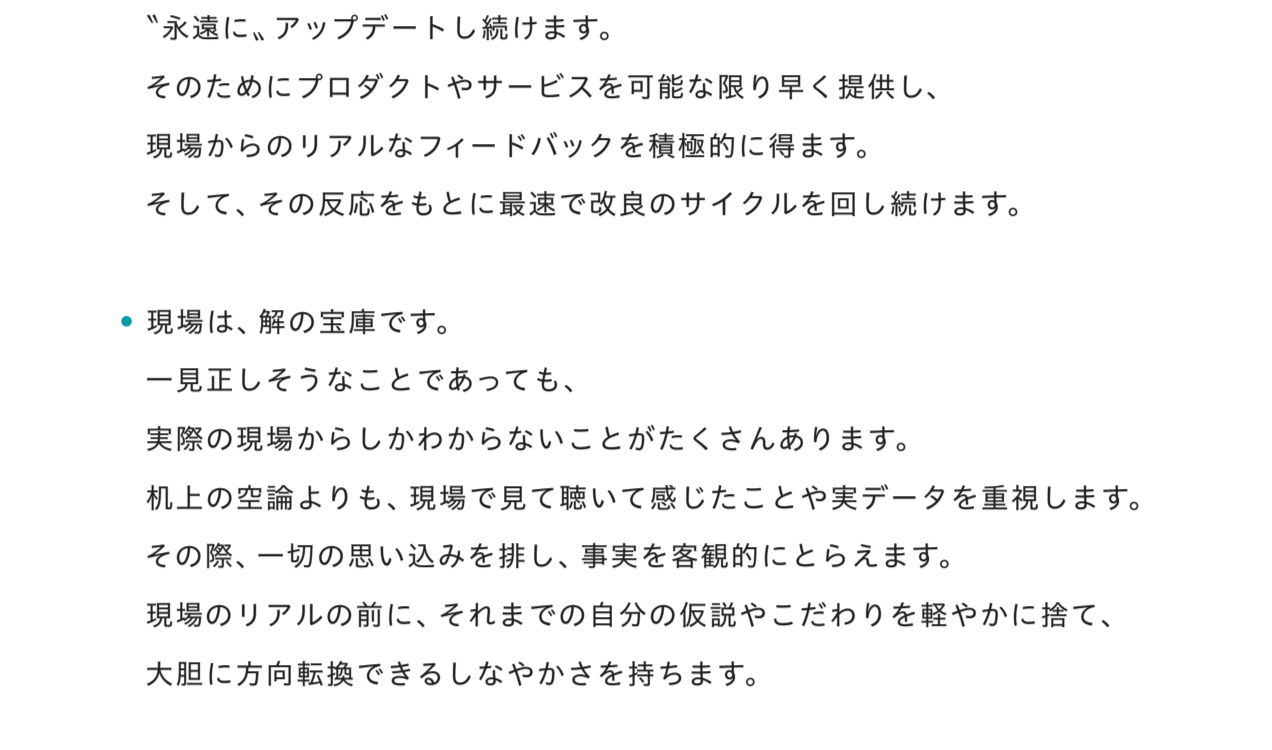
ですから、意思決定の基準もシンプルです。あらゆる決定の基準は、究極的にはただひとつ、「Missionの実現に向かって前進しているか」。それだけです。判断に迷ったらここに立ち返ります。それ以外に、誰の顔色をうかがう必要もありませんし、自らの利益を追求する必要もありません(いえ、もちろん利益も大切ですが)。過去の成功体験にこだわらず、変化に伴う痛みを恐れず(むしろ、変化は歓迎します)。Missionの実現に向かって、日々前進する。これを継続していきます。

Missionの実現には、「Wow students」を追求することが最短の道だ。これが私たちの信念です。そして、行動に表される3つの価値観、「Think beyond」「Speak up」「Love fun」を大切にします。これらのValuesを体現するために必要なことを定めたものが、それがCulture codeです。

Culture codeは、いわば、何を「いい」と感じるか、何が「リスクに属するか」のモノサシです。何が「いい」かが人によって異なるのは最高に美しいし、パフォーマンスも上がります。その逆は...悲劇です。ですから、atama plusという「場」を共にする一人ひとりによってCulture codeは決定的に重要で、各々の働き方や日々の意思決定の基準になります。

私たちは「全員がCulture codeを体現している状態」であり続けるために力をつくします。なぜなら、その状態であれば細かい(そしてつまらない)ルールが不要になるからです。全員がCulture codeを体現できていれば、必然的に慣習・行動はひとつの大きな方向を向いたものになります。その中での個々の自由な動きが生まれます。一人ひとりがMission実現の当事者として、自律的に行動できるようになります。

# Values



## 生徒が熱狂する学びを。

勉強をワクワクするもの、  
自分からやりたいものに変え、  
生徒一人ひとりの可能性を広げる。  
私たちのあらゆる行動は、  
ただ、そのためにあります。

- まず最初に語るべきは、  
学びとはワクワクするものだという信念です。  
学ぶことが、勉強することとは異なるもの、退屈なものという人がいます。  
私たちはそれは思いません。  
わからなかったことがわかるようになる。  
知らなかったことを知る。  
できなかったことができるようになる。  
それは教員に満ちた驚きであり、高鳴りであり、感動です。  
このように学ぶこと自体に楽しみを見出し、  
勉強が「やらされるもの」ではなく「自分からやりたいもの」になる。  
それが熱狂する学びだと私たちは考えます。  
そんな学びを無数の生徒に届けることで、一人ひとりの可能性を広げ、  
ひいては社会の可能性を広げられると信じています。

- この熱狂する学びを、プロダクトを通して、  
あるいは顧客やユーザーとのコミュニケーションを通して広げます。  
プロダクトも、コミュニケーションも、  
あくまで「Wow students」という目的を達成する手段です。  
もって切り離して手段を追求すること。  
例えば一時的な評価や表面的な数字を追うことは決してしません。  
常に「Wow students」を中心に、  
この目的にとって最適な手段を選択し、行動します。

- 私たちは、プロダクトやサービスを  
“永遠に、アップデートし”続けます。  
そのためプロダクトやサービスを可能な限り早く提供し、  
現場からのリアルなフィードバックを積極的に得ます。  
そして、その反応をもとに最速で改良のサイクルを回し続けます。

- 現場は、解の宝庫です。  
一見正しそうなことであっても、  
実際の現場からしかわからないことがたくさんあります。  
机上の空論より、現場で見て聴いて感じたことや実データを重視します。  
現場、一切の思い込みを排し、事実を客観的にとらえます。  
現場のリアルの前に、それまでの自分の仮説やこだわりを軽やかに捨て、  
大胆に方向転換できるしなやかさを持ちます。

- 私たちが生み出すものは、単に教材ではありません。  
熱狂する学びによって、まずは「基礎学力」を  
最短で身につけられるような仕組みをつくります。  
その先に「社会でいける力」を伸ばすような教育をつくり、  
社会全体の進歩に大きく寄与していきます。

# 大切にしている3つの行動

## Think beyond+

## Speak up+

## Love fun+

## Think beyond+

### 常識は、さておき。

「なぜ?」を突きつめ、  
「どうやって?」を変え、  
今までにない価値を次々と生み出す。  
常に、当たり前先へいきます。

- 私たちは常識や前例にとらわれません。  
今あるやり方は、じっくり紐解いていくと単なる慣習だったり、  
その中には意味があったものの今は前提が変わってしまっている、  
ということが多々あります。  
私たちはそうは思いません。  
広がる「当然」を疑います。  
現状を深く理解し、問題の本質を見極め、  
本当に必要なことは何なのか、もっとうまくやる方法はないのか、  
常に考える、突きつめて考える。  
そうすることで新しい価値を生みだします。

- ただし、すべてをゼロから生むことにはこだわられません。  
世の中には参考となる先行例や資料がたくさんあります。  
そこから学び、不要な前向き主義に陥ることはありません。  
私たちは、イノベティブであるとは  
もって軽やかで柔軟なものと考えます。  
活かせないものは柔軟に、真にリソースを割くべきことに注力して、  
最も必要なものを、最も効率よく、最も大胆に生みだします。

- そう考えたとき、自分の役割に直接関係しない領域にも  
広く興味を持ち、常に多様な知見を集めていることはとても重要です。  
といっても、それは表層を追うことを意味しません。  
表面的なところばかり目を向ける、  
「なぜそれが良いとされているのか?」という核心に思い至らず、  
盲目的に信じていることとなってしまいうからず。  
そうではなく、常にその知見を貫く原理原則は何なのかを問い、  
私たちの現状に対してどのように応用しようのかを考えます。

- 顧客・ユーザーに対しても同様です。  
現場のリアルな反応の重要性を「Wow students」の項で述べました。  
しかし、顧客やユーザーの声を「聴くこと」と  
「聴き取る」は全く違うものです。  
私たちは、彼らの声をただなぞることとはしません。  
実際の声を集め、行動を観察し、それをもとに、  
実際に顕在化していない顧客・ユーザーの真の悩み、  
真の不満、真の欲求は何なのかを突き詰めます。

- 社会を動かす大きな変化は、  
何かひとつのビッグアイデアで生まれるわけではない。  
現状を一步でも前に進める小さなイノベーションの積み重ねによって、  
気づかぬうちに、いつの間にか驚くほど劇的な変化が生まれている。  
それが私たちのイメージする「変革のモデル」です。  
つまり、一人ひとりが今向き合っている目の前の案件こそが  
イノベーションそのものだという事です。  
そう。私たちの考えでは、未来の一日は常に今日です。

## Speak up+

### 話そう、とことん。

みんなで  
オープンな場を築きます。  
ひとつの大きなチームとして  
意見をぶつけあい、  
わかちあいます。

- 風通しの良いコミュニケーションは、  
私たちの生命線です。  
何に代えても守るべきものです。  
全員で良いプロダクト、  
サービスをつくり続けていくためには、  
さまざまな視点を持つ仲間どうし、  
率直な意見やフィードバックをしあって  
建設的な議論を行うことが大切だと信じます。

- そのため武器となるものは何か。  
ロジカルシンキングや議論のスキルのようなものはもちろん大事ですが、  
それ以上に価値を置いているのは「イマジネーション」です。  
私たちは一人ひとりバックグラウンドも担当役割も違いますが、  
ある人にとって当たり前でないということが頻繁にあります。  
別の人にとっては当たり前でないということが頻繁にあります。  
そこで、全員で一丸となってMissionの実現を目指す上で  
障害となるような誤解・懸念を生まないよう、  
多様な役割を持つ仲間がどう考えるか常に想像して  
コミュニケーションします。  
この「他者に対するイマジネーション」が  
とりわけ豊かな集団であることは、私たちの誇りです。

- 私たちは、可能な限り同じ空間を共有し、  
直接顔を合わせて頻りにコミュニケーションを行うことが  
atama plusの集団としての一体感をつくると信じます。  
ひとつの大きなチームとして、  
個人の作業効率を上げることよりも  
チーム全体の成果を上げることが優先します。

- また、情報をオープンにすることも  
ひとつの大きなチームとしての一体感をつくると信じます。  
私たちは仲間を信頼している、  
多くの情報をオープンにすることができます。  
非公開にすべき特別な理由のない情報は、  
共有にコストのからない情報はすべてオープンにします。

- 人は納得しているかどうかで行動に差が出る。  
それが私たちの考えです。  
ですから、何かの意思決定を行いそれを共有する際には、  
結論だけでなく、その背景や根拠まで含めて説明します。  
もちろんそれらを全て共有するのは現実的に不可能です。  
しかし、納得した上で行動をとってもらいたいことについては、  
その説明のための努力を最大限します。

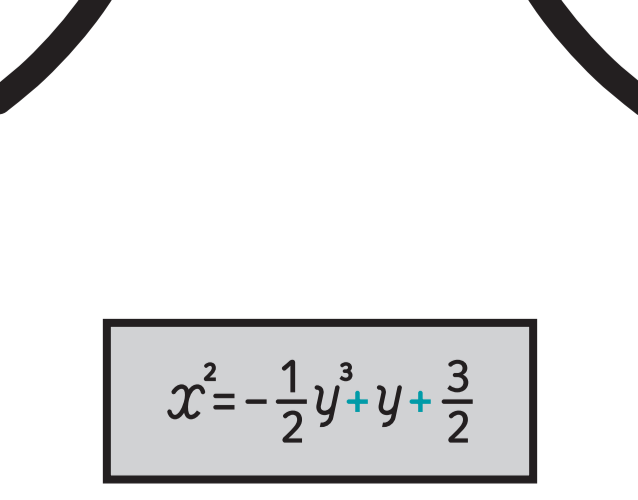
- Missionの実現にむかって進んでいくために、  
ポジティブ/ネガティブ両方のフィードバックを忌避なく行います。  
不必要な遠慮はしません。  
率直に、活発に。ただし、相手への敬意と誠意  
(そして可能な限り、時には若干のユーモア)をもって。  
特にネガティブなフィードバックを行う際は当事者同士で直接顔を合わせ、  
できるだけ具体的にを行います。

- また、自分の役割以外のことであっても、  
「Missionの実現に貢献する」と考えた場合にはほとんど意見を投げかけます。  
その際は、私たちの仲間が考えぬいた上で判断をしているという前提に立ち、  
説明や行動の要求ではなく、前向きな提案というスタンスで意見します。  
そして最終的には意思決定の役割を自分・チームに決定を任せます。

- 一方、役割の異なる仲間から意見をもらった場合は、  
新たな視点を得る貴重なチャンスとして前向きに耳を傾けます。  
バックグラウンドの異なる相手に対して  
意見を投げかけるのは勇気のいることですから、  
その勇気に敬意を払い、真摯に受け止めます。  
もらった意見に対し、  
必ずしも説明や行動の義務を負うわけではありません。  
しかし、自らのそれまでのプランに  
いざ知らず固執するのはなくニュートラルな視点で、  
どのように活かせるべきか、  
Missionの実現のために活かせることはないかよく考えます。

# Wow曲線

これは、学びの熱狂(Wow)が生み出す熱意の高まりを表す曲線です。  
私たちのサービスatama+の「アタマ先生」の輪廓線として用いられています。  
生徒一人ひとりの心を、ひいては社会を、学ぶことワクワクで満たす。  
その結果ふくらんでいく希望や、わかちあえる好奇心、  
広がる未来のしるしでもあります。  
まあ、教育を、社会のまんなかを新しくするために、  
今日も、明日も、いっしょにWowをどこまでも広げていきますよう。



$$x^2 = -\frac{1}{2}y^2 + y + \frac{3}{2}$$

